見学

流れ作業化反省

栃木県で研究集会　〝新幹線〟は疲れぬ

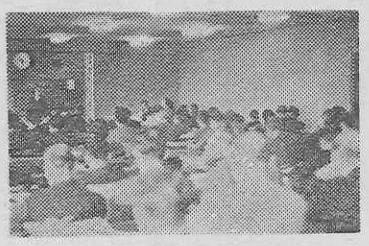
栃木県中学校長会と同修学旅行部会共催、財団法人全国修学旅行研究協会、関東地区中学校修学旅行委員会後援の〝修学旅行研究協議会〟は、十一月二十五日、宇都宮市の栃木会館に県内中学校長と修学旅行担当教諭約百名が出席して開かれた。テーマは〝望ましい修学旅行のありかた〟で、見学観点、コース選定、日程などの諸問題について研究発表と活発な討議が行なわれ、午後からは武蔵野美術大学教授、日本観光文化研究所長、文学博士宮本常一氏の講演もあり有意義な一日だった。

栃木県中学校長会長（一条中学校長）永塚正尚、同修学旅行部長（晃陽中学校長）大越鬼子男両氏の開会の辞につづいて後援団体として財団法人全国修学旅行研究協会事務局長白滝末紀氏と関東地区中学校修学旅行委員会事務局長高橋儀六の挨拶があったあと静和中学校長飯田弘氏が司会者、全修協研究部長岩崎武夫氏が助言者となって提案に入った。

「小中高校との関連の中で」と題して塩原町箒根中学校長人見芳正氏は「学校行事」「修学旅行的行事」「地域生徒の実態」を三本の柱として問題をとらえ、昭和四十五年度修学旅行の反省を述べたが、それによると修学旅行的行事のねらいである①教師と生徒および生徒相互の人間的接触を経験し生涯たのしい思い出になる②わが国の文化、経済、産業、政治などの重要地、大自然の美しさに触れることができた。さらに教科その他における指導の拡充、広い知識と豊かな情操をつちかうことにはほぼ目的が達せられた、と述べた。

しかし、①については学習内容とその方法、生徒の能力、個性加味の点ではお考慮が必要であろうとしている。また、高校との関連ではほとんどが重複している。

四十五年度は奈良、京都、比えい山へ行ったが、神社仏閣が大部分を占めており、領域的に狭く身近かに感じられず、したがって生徒個々の能力にもよるが、約半数の生徒には理解が困難である。また、ほとんどが引率説明で、流れ作業的であり、自律学習の場がない、などの反省点があげられた。とくに薬師寺、広隆寺、金閣寺では、生徒の三分の一が理解できず事前指導不備が痛感されたと結んだ。



鹿沼市西中学校長堀入安三郎氏は「わかくさで行こうとしたのに」と題し次のように述べた。

「私は前任学校では〝わかくさ号〟、現学校では〝新幹線〟を利用したが、果たしてどちらが生徒のためによいか迷った。〝わかくさ〟は毎年利用し、乗りなれているため下見の必要もない。乗車時間も長いので、生徒間の友情や師弟間のあたたかみが交流でき、また、他校との交歓もできるのが利点だ。夜は八時ごろまで見学できるし、朝、帰校してその日はゆっくり休める。

一方、新幹線はとり落ました乗客のかたい感じが気に入らないのである。しかし、ことし新幹線を利用したら、この心配はなくなった。車内はきれいだし、ほかの乗客はいない。往復とも昼間なので窓外の景色も眺められる。見学時間は〝わかくさ〟と大差はない。こう考えてくると結局〝新幹線〟がよいことになる。しかし四十八年度からは、つなぎ列車の関係でうまくいかないという。よい方法はないものか。

見学個所については生徒の自主的運営で決めたい。なお修学旅行に先立ち新幹線について生徒からアンケートをとったところ、すでに乗車したことのあるものは三百五十四名中、三十二名しかいなかった」と報告された。

田沼町東中学校の兵藤ヤス教諭は「修学旅行の保健調査」について次のように提案した。

「四十五年度は〝わかくさ〟を、四十六年は新幹線を利用した。両方の保健状態をみると修学旅行終了した第一日目の欠席は、〝わかくさ〟では十九名もあったのに、新幹線では五名、二日目は十一名だったのが七名、三日目は四名が二名、四日目三名が二名となっている。早退は〝わかくさ〟では第一日目から四日目までに九名あったが、新幹線ではゼロだった。（この時期では三年生の欠席は一日平均二―三名である）これから考えると疲労回復の点では新幹線のほうが修学旅行に適しているように思われる」

さらに同教諭は四十五年修学旅行実施中および帰校後の生徒の保健調査結果を発表、注目された。

昼食後、武蔵野美術大学教授、日本観光文化研究所長、文学博士宮本常一氏の講演があり、参加者に大きな感銘を与えた。

写真は栃木県における修学旅行研究協議会（栃木会館で）

新コース開拓の現地調査

関修委が関西方面へ

関修委（戸田俊雄会長）では修学旅行新コース開発のため現地研修会を二月十一日から三日間、京都、滋賀、奈良、三重の各県で実施する。第一日は東京から新幹線で京都へ。三千院などを経て大津泊り。二日目はバスで天理市、飛鳥古原めぐり、鈴鹿へ行き宿泊。三日目は鈴鹿サーキット、本田技研工場を見学後、二見、鳥羽方面へ。鳥羽から水翼船で浦郡へ行き豊橋から新幹線で午後七時半東京着。会費は二万円で申込みは一月二十九日までに全修協内「関東地区中学校修学旅行委員会」へ。

新春を迎う　全修協役員と支部長の言葉

全修協発展を祈る

田尻　貴

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり全修協の皆さんが元気で活躍になりますように。十六歳になった全修協がいよいよ発展するように心から祈るとともに全力をあげて努力することを誓います。（宮崎県支部長）

合国の同志で研究

小沢　一郎

新年をお祝いいたします。

教育関係者、父兄の間で新しい修学旅行のありかたについて論議されている昨今、全国同志が組織的に研究を重ね、関係機関と問題解決に努めていることは、国民教育伸展のため喜ばしいことであり県支部も大きな責任を感じています。

教職員の研修旅行についても実施以来、多数の参加者を出し、教育実践に自信をもって当り、その成果をあげています。一人でも多く参加できる条件と内容を持った研修旅行として年ごとに参加者の増加をはかりたいと思います。（福島県支部長）

積上げる運動成果

岩尾　覚

新年おめでとうございます。

私は和歌山県支部長を引受けてからまだ日が浅いので全修協運動についての理解も甚だ不十分で、編集者の希望するような抱負などを述べる準備がありません。

ただ修学旅行が小・中学校を通じ学校での重要な年間行事の一つであることは出すまでもありませんし、全修協が今日まで積上げてきた研修と運動の成果は高く評価されるでしょう。今後とも一層のご尽力をお願いするとともに本県も皆さんの期待にこたえ得るよう工夫していきたいと思っています。

教職員研修旅行については四十七年度は近畿互の統一計画に参加することを去る十一月末の県教互の理事会で決定してくれました。旅行に参加する人々に心から喜んで貰えるような計画とサービスに万全を期して貰いたいと願っています。（和歌山県支部長）

行動主義で進もう

田崎　辰夫

毎年、正月を迎えるごとに〝一年の計は元旦にあり〟などいっていろいろ計画をたてはみるが、三日坊主に終るのが関の山である。

そこで近ごろは言葉をかえて、〝思い立ったのが吉日〟というのがぴったりするような気になった。ものごとには何でも潮どきというのがあって、その機会を逃したらまたと絶好のチャンスに恐まれないことがあるからだ。

もちろん新年も〝浪気乾坤万物新たなり〟で心境揚々として春を迎え、今年こそやるぞの意気さかんなものがあって、よい機会はあるが、これがマンネリ化しては大した意味がない。

それで時と所を問わず〝よい〟と思ったことは想を練り、策をたて試行してみることである。徒らに左顧右べんしていたのでは物事は進まない。行動してみて悪い点を改めていけばよいのである。

全修協が本年から春季研修旅行の実施に踏み切られたのは、まことに適切であり、今後は冬休み期間もプログラムに組み入れるよう計画されてみては如何なものであろうか。（長崎県支部長）

修学旅行に息吹き

西山　文男

―修学旅行のマンネリ化の打破を契機に今日の教育の創造的脱皮をはかりたい。

今日の学校が莫大の指導内容をかかえて、学校生活自体が形式的固定的な姿となり、加うるに進学進学に追いまくられて、自発的創造的気風の入りこむ余地すらない。

幸いにも修学旅行が教育課程上特別活動の中に入り、豊かな学校生活体験と日常学習の総合的成果の発展として、最も自主的創造的に計画可能な性格をもっている。最も古い伝統的行事であるだけにマンネリ化症状をもつ修学旅行に新しい創造の息吹きを加えて研究をすすめ、広く今日の教育をより創造的に性格変更させる契機としたい。その意味で県下組織の再編成を通じて本年はその基盤を作りたいものと考えている。（三重県支部長）

新しい旅行の創造

吉田　一三

「安全で快適な修学旅行」の運動と、そのために「教職員の研修旅行」を、教育界に起るさまざまな現象に惑わされることなく、一途に続けてきた全修協の足跡は偉大であり、その全修協の一員であることを名誉に思います。また、香川県の成績がよくないにもかかわらず全修協の各位から厚意なく交際していただいたことを厚く御礼申しあげます。年頭に当って、本年こそは大いにがんばりたいと思っています。

修学旅行の意義は今まで論じ尽されてはいるが、その研究は甚だ不十分であると思います。全修協が修学旅行の研究にとりかかっていることは時期を得ていると思います。社会情況の激変と、それに伴う価値観の変化を考えるとき、現代産業の中に生活し、未来社会を築くための修学旅行を創造しなければなりません。これこそ全修協に課せられた七十年代の使命であると思います。（香川県支部長）

期待にこたえたい

小島　要

全修協で扱ってきた修学旅行生徒数が昨年までに六百万を越え、同じく教職員研修旅行では七万五千にのぼるという。この多数者が全修協の掲げる旅行の「安全性」と「有効性」と、さらに「指導」の向上」「福祉厚生の増強」の趣旨の下に実に予想以上の大きな利便と恩恵をうけてきたことは論をまたない。このため全修協事業の教育界に果してきた役割の大きかったこともまた否むことの出来ない事実といえよう。全修協発足以来十六年、この間の積上げによるこれら偉大な成果を見るにつけ、この仕事に精魂を傾け、尽瘁してこられた理事長、役員、事務局員各位に対して深甚なる敬意と謝意を表したい。

今や各県、地区ごとの組織も年々充実され、事業達成の基盤もいよいよ強大になりつつある。かつては夢想とされた新幹線の利用も実現化されてきた。全修協に対する期待はますます増大の度を加えつつある。

これに応える意味でも関係各位のご自重で健闘あらんことを心から念じてやまないしだいである。（新潟県支部長）

研修旅行に支援を

畠山　克己

人生七十年の中で忘れ得ない印象をあげてみると①小学校入学の思い出②少年時代の村のお祭りの行事③最初にみた海の印象④最初に乗った汽車や電車の経験⑤楽しかった修学旅行の思い出⑥最初にみた大都市の印象⑦結婚式の緊張

こうしてみると修学旅行によって得たものが大部分である。全修協が児童・生徒の修学旅行や教職員の研修旅行を安全に、かつ効果的にするため日夜精力を傾けておられることはまことに意義ある仕事であると思う。

とくに教職員の場合、自分のレジャーや修養のためのみでなく教壇に立つとき、その見聞や体験がすぐ役立つことになる実際経験した事実に基づく説得力は受ける者に大きい感動を与えることはいうまでもない。この意味では教育委員会としては大いに職員の研修旅行を奨励して然るべきことである。

百聞は一見にしかずというからいろいろな講習を受けたり読書による自己研鑽とともに日進月歩の社会文化にふれ、史実をあさり、見聞をひろめることがより必要なことと思う。（秋田県支部長代）

全修協発展のため

山口　貞一

あけましておめでとうございます。

財団法人全国修学旅行研究協会が飛躍的発展をとげ、名実ともに充実した活動を実施されておりますことをおよろこび申しあげます。

今日いかに産業や文明が進歩発展したとしても、それを生みだすものは機械のメカでもなくコンピューターでもありません。それは人間が創り出すものです。

現代の教職員や生徒が、祖先の残した文化財、天然記念物、日本のすぐれた自然と歴史、文化、芸術に、直接この目この足で確かめるというこの一つの大きな真実の上に、すべての文明が創られ、偉大な歴史の所産とした人類に伝えられるでありましょう。

全修協が十五周年を契機に旅行の実態をさらに調査研究し、その改善に努力され、すばらしい協会に発展されるよう心から祈念いたします。（鹿児島県支部長）

充実した修学旅行

ツーリストをお役立てください

ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として"修学旅行映画"シリーズを製作しております。

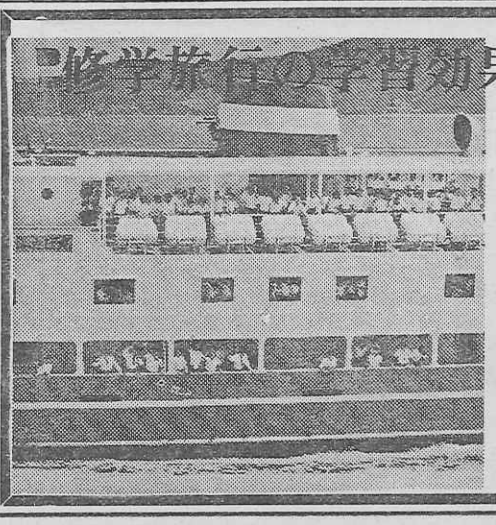
●修学旅行映画シリーズ

京都の庭園　富士箱根　日光　大和の国なか
大和の塔　火とみどりの国　瀬戸内海
みちのく　大和の道　大和の石　京都の川

（いずれも文部省選定、16ミリカラー、上映時間25～40分です）

電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」

近畿日本ツーリスト



修学旅行の学習効果向上のために

全船冷暖房完備の修学旅行専用船

わかば丸・ふたば丸

旅客定員805名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！

関西汽船

●お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

春の研修旅行登場

山陽新幹線で西へ

全学期休暇実施へ本格化

全修協企画による教職員研修旅行はことしで十六回を迎えるが、これを機会に全国教職員の要望にこたえ多シーズン制を採用、いままでの夏季旅行のほかに春季も実施することになった。新開通の山陽新幹線を利用して「四国一周」「南九州」を、また、飛行機、東海道新幹線利用の「伊豆半島と伊豆大島」の三コースで、締切は三月十日だが早くも全修協各支部や募集機関には申込みが殺倒している。

さらに夏季は三種類の「北海道コース」をはじめ「南西諸島」「沖縄」をふくめて十五コースを募集することになり、春季コースの詳細と夏季コースの予告を記載したチラシを全国の小中高校に配布中である。春季の出発日、会費、日程は次の通り。

山陽新幹線と四国一周

▽出発日＝三月二十六日と二十七日の二団。

▽会費＝北海道、東北、関東地区は東京発着で三万八千円。東海北陸地区は新大阪発着で三万一千二百円。

▽コース＝【第一日】東京―岡山―倉敷―美術館―民芸館―鷲羽山泊【第二日】鷲羽山―下津井―（船）―丸亀―琴平―松山―子規堂―石手寺―道後―温泉泊【第三日】道後―松山―高知―桂浜―竜河洞―高知泊【第四日】高知―大歩危―小歩危―琴平―高松―栗林公園―屋島―高松―土庄泊【第五日】土庄―小豆島表観光―土庄―（船）―岡山港―岡山―東京。

研修行事としては倉敷、松山で有識者による現地説明または講演が予定されている。

山陽新幹線と南九州

▽出発日＝三月二十七日（予定）

▽会費＝北海道、東北、関東地区は東京発羽田着で三万九千円。東海、北陸地区は新大阪発大阪空港着で三万七千三百円。

▽コース＝【第一日】東京―岡山―（車中泊）―【第二日】―西鹿児島―今和泉―開聞岳―長崎鼻―池田湖―鹿児島―磯公園―霧島（泊）【第三日】霧島―霧島神宮―高千穂河原―硫黄谷―えびの高原―都城―志布志―串間―都井岬泊【第四日】都井岬―志布志―鵜戸神宮―サボテン公園―子供の国―青島泊【第五日】青島―宮崎―宮崎神宮―はにわ公園―宮崎空港―（全日空）―大阪空港―（日本航空）―羽田空港。宮崎、鹿児島で現地説明または講演ある予定。

伊豆半島と伊豆大島

▽出発日＝三月二十五日、二十六日の二団。

▽会費＝九州地区は福岡発、博多着で三万九千円。中・四国地区は新大阪発着で三万百円。

▽コース＝【第一日】福岡空港―（日本航空）―大阪空港―新大阪―三島―長岡―韮山反射炉、江川邸―修善寺温泉泊【第二日】修善寺―土肥―堂ヶ島―松崎―石廊崎―下賀茂泊【第三日】下賀茂―下田―（東海汽船）―元町（大島島内見学）―小浦園泊【第四日】旅館―元町―（東海汽船）―熱海―十国峠―箱根町―（湖上遊覧）―桃源台―熱海―（特急寝台）【第五日】―博多（中・四国地区は熱海から新幹線で新大阪へ）

色とりどりの夏季コース

夏季研修旅行は十五コースのほか特別コース二つ、そのほか日教組の「ヨーロッパ教育事情視察」などがある。

▼北海道一周Aコース▼北海道一周Bコース▼北海道秘境コース▼東北一周コース▼陸中海岸コース▼佐渡・弊梯・蔵王コース▼中部山岳コース▼能登と越前コース▼伊勢志摩・南紀コース▼伊賀・吉野・飛鳥コース▼四国一周コース▼山陽と山陰コース▼九州一周コース▼南西諸島コース▼沖縄コース▼特別コース（尾瀬の探勝、鎌倉の再発見コース）＝近畿地区だけ実施。

このほか日教組企画の「ヨーロッパ教育事情視察」や東京私学関係の研修旅行も予定されている。出発はいずれも七月下旬から八月上旬にかけて行なわれる。

先進国と後進国

日米決戦の古城

わが外遊記⑨

高田治郎

カンデーの近くにペラデニヤ植物園がある。三方が川に囲まれた広さ一五〇エーカーもある熱帯植物園で有名なものであると説明してくれた。ランばかりの温室をみたが、その花の種類の多いのと美しいのに驚いた。

マンウン・ラビニヤはコロンボから十三キロほど離れた海岸にある町で、セイロン第一の景勝地である。海岸沿いにヤシの木が並び白い砂の上に咲いた美しい紫の色紺ぺきの海、快晴の天気にめぐまれて何とも云えない絶景である。海底には美しいサンゴ礁があるのでボートに乗って見物する遊覧船がある。ボートの底はガラス張りになっていて、そこから見るのである。美しいサンゴ礁とその間を泳ぐ大小さまざまな熱帯魚はすばらしかった。私はカラー写真を何枚もとったが、あまりよい出来ではなかった。

セイロン島の金持ちは広大なヤシ園をもっていて、莫大な収入がある。ヤシの木一本がいくらで、一ヶ当りいくらというような説明をきいたが忘れた。私たちを案内したダイヤシン氏のお父さんも広大なヤシ園の所有者であるときいた。

帰りに夕方であったが、動物園に行った。ちょうど象の曲芸が終った時で、大勢の見物人が帰るところで、残念ながら曲芸は見られなかったが、しかし突然、虎の赤ちゃんを抱くことが出来た。

虎の子を抱いて

それは象を見ながら歩いていたら突然、労働者ふうの男が私たちを誘うのでついて行ったところ、小屋の裏から中に入ったかと思うと、一匹の虎の赤ちゃんを抱いて来た。そして私に抱いて写真をうつせというので、びっくりして同枚かの写真をうつした。この男は動物園の飼育係であったが、あとでお金を請求されたのは勿論であった。

シンガポールには十二月八日の午後七時すぎに着いた。翌日十一時すぎにはマニラに出発する予定なので、太平洋戦争の激戦のあとを見るくらいのものであった。

マレー半島の先端にあるシンガポール島との間がジョホール水道で、今は橋がかかっている。シンガポールの市街の官庁街や商業地区は完全に西洋風である。現在は外交・国防以外は完全に英国から独立した自治領である。

住民は中国人が八〇％に近く、世界では最大の中国人の都市である。現住民のマラヤ人は一二％で白人は一％にすぎない。その英国人が政治の実権をにぎっている。

水攻めの地下壕

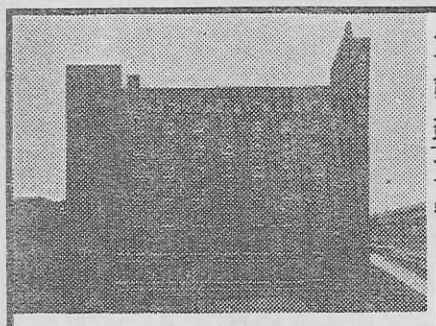
山下将軍とパーシバルとが会見したアキテマノ丘は、南西部にある字の示すように小高いところで今はテレビ塔が立っている。すぐそばに道路があって、いまフォードの工場になっているところが会見した場所である。

シンガポールは赤道直下である。前回の報告の中にあったゲニヤのナイロビも同じである。今回の世界一周の旅で赤道を五回通ったことになった。

十二月九日午後三時マニラに着く。フィリッピンはシンガポールと共に太平洋戦争中の最大の激戦のあったところで、死の行進で有名はコレヒドールは行かれなかったが、フォト・サンチャゴの古城を視察したのでご紹介しておきたい。フィリッピンは一五六五年、スペインによって征服されたが、その後いまから七十余年前、米西戦争での激戦地となったのが、この古城である。第二次世界大戦でも日米の決戦の行われたのもこの古城である。この古城の中にコンクリート造りの地下壕があるが、ここは日本軍が水攻めにしたところであるときいた。説明したのは日本人の留学生であったが、余りよい気持はしなかった。今も古城は廃墟のままになっている。

この古城はマニラ市を東西に流れるパシッグ川の南側にあって、古い城壁で囲まれていて、イントラムロスと呼ばれているところである。（つづく）＝全修協理事・北海道支部長＝

コロンボの動物園で虎の子を抱く筆者。



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585－1046(代表)

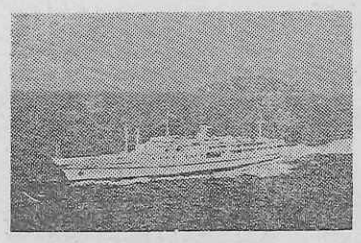
東京 コマ旅行会館

静かな湖畔の宿
47年3月1日オープン
《予約受付中》

〈収容〉800名様
〈浴場〉1時に150名
〈設備〉全館冷暖房
〈防災〉各設備完備
〈食堂〉550名席

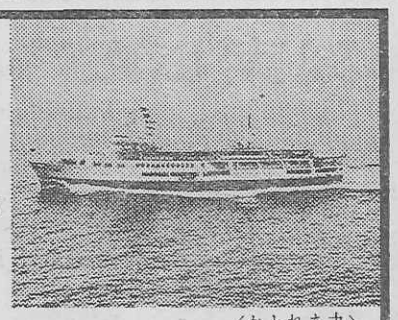
びわ湖旅行会館
大津市におの浜3丁目
ビワコ・エースレーン内
びわ湖旅行会館開設準備室
電話 大津 0775－24－2521(代表)

若い心を大きく広げる
豪華観光船 ふじ・にほん丸（旅客定員 1,800名 3,000トン）



見ているだけで、心が大きく広がる海――
修学旅行は海になさいませんか。
日本最大の豪華客船　ふじ・にほん丸が、
生涯忘れえぬ修学旅行へご案内いたします。
純白の船体に若い心をのせて……。
●科学技術の粋をあつめた最新鋭船。
●一流ホテルのような豪華な設備、完全エアコン。
●皆さまのスケジュールにあわせて就航。
●学習講議用TVシステムも完備。
●一般乗客との混乗はありません。
●お問い合わせは●
Ⓐ 大島運輸株式会社 東京支店 東京都中央区日本橋通1の6 浅野ビル ☎(03)273－8911

校外学習に生きた教材の宝庫
国立公園
伊豆大島
■海洋学の習得■島の理科・地理・歴史の学習■保健体育にも



〈かとれあ丸〉

《かとれあ丸》は
・2,300トンの豪華大型船
・船内設備は超一流
・船酔いがしない

東海汽船
東京都中央区銀座西8－10
TEL 03 (573) 0241